

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202866		
法人名	有限会社 あじさい		
事業所名	グループホーム あじさい ユニット1		
所在地	長崎県佐世保市世知原町筥瀬778-3		
自己評価作成日	令和元年8月9日	評価結果市町村受理日	令和元年10月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和元年9月18日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かな静かな地域の中で、利用者様が社会の一員として「自由に楽しく笑顔をもって」生活して頂けるよう、寄り添いながら、常に利用者様を主体とした支援に取り組んでいます。また、ご家族や地域の方が、いつでも気軽に訪問して頂けるようなグループホームを目指しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、製茶で有名な土地柄で自然豊かな環境の中に位置し、隣接して母体医療機関や障害者社会復帰支援施設がある。ホーム長、職員は理念「利用者が地域の中で、その人らしい生活が送れるように、自由に楽しく笑顔で」を理解し、家庭的な雰囲気作りを意識して利用者・家族の思いを大切にしたい個別の支援を行っている。更に運営推進会議の多方面からの出席者の意見やアイデアを運営に活かし、地域に開かれていることは事業所の強みである。また、職員の研修やスキルアップを事業所がバックアップし、職員の意欲向上と勤務し易い職場環境に配慮することで、職員のコミュニケーションが取り、チームワークが高められている。隣接のパン工房やレストラン等、車椅子利用の利用者も気軽に行ける環境は、利用者、職員の気分転換に役立ち、明るく開放的な雰囲気の事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	勤務表に挙げるとともに事業所内も掲示している。朝の申し送りの際には理念を唱和することで共有し実践につなげている。	理念「安心した生活の支援と地域に密着し開かれた運営」と、ケア理念「自由に楽しく笑顔で」がある。毎朝、管理者と職員は唱和し、理念を共有している。利用者の思いを大切にす個別支援に力を入れ、職員の笑顔での対応は利用者の穏やかな表情に繋がり、理念の具現化が確認できる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事を把握し、七夕祭り、おくんち、文化祭などへの参加や見学を行い交流が来ている。	地域のおくんち、七夕祭り、じげもん市等に利用者も参加し、文化祭には作品を出展している。今年、事業所の駐車場で秋祭りを開催し、多くの住民参加など地域との交流は盛んである。また、保育園児の訪問や中学生の職場体験の受入れ、毎月の巡回図書など日常的な交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症の人を理解するために行った内部勉強会の内容や、施設での実践の様子を伝え理解に努めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回行っている運営推進会議では利用者様の実態や支援の取り組み状況などの報告を行った。意見交換で得たことは支援に活かせるよう努めた。	年6回、規定の参加者での開催しており、事業所の状況報告も詳細な内容である。地区代表はじめ警察職員など各方面からのさまざまな話題が議事録に記載され、要望や助言をサービス向上に活かしている。自然災害等の避難について住民から助言があり、より安全な方法を検討中である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護の方が利用されていることもあり市町村担当者とは連絡をとることが多い。文書や電話の他窓口での対応で連携を図っている。	支所の窓口で介護保険の更新や区分変更申請など行い、担当職員の訪問も多く協力関係を築くよう取り組んでいる。市主催の研修会にも参加し、ケアサービス等に活かしている。また、包括支援センターの職員とは常に連絡を取り合い、地域高齢者の情報などを共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	グループ内事業所と共に、高齢者虐待についての勉強会を外部からの講師を招き学んでいる。常日頃より身体拘束にならないケアに努めている。	身体拘束適正化検討委員会では、内部研修を定期的に行い、身体拘束のないケアに努めている。外部講師の研修会で、不適切なケアの事例などから拘束のない支援の取組みを学んでいる。虐待の芽チェックリストで職員が自己評価を行い、言葉での制止や声掛けにも配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連の研修会に参加した内容を内部勉強会にて伝達講習し、正しく理解することの周知を図った。お互いの言動について声を掛け合い、意識することができるようになってきている。		

グループホームあじさい ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会において学ぶ機会があった。実際に安心あんしんセンターや成年後見制度を利用されている利用者様もいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居時は十分な説明を行った上で不安や疑問点がないかを尋ね、納得した上で同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関には意見箱を設置し、運営推進会議では、ご家族が発言しやすい雰囲気作りに努めている。面会時には要望の有無がないか、必ず声をかけるようにしている。良いことも悪いことも職員間で共有するようにしている。	契約時に重要事項説明書をもとに苦情解決の流れ等を説明し、意見箱の設置場所を知らせている。家族が訪問した際にはホーム長、職員が声を掛け、直接要望等を聞き取るよう努めている。事業所から家族に向けてあじさい便りやメッセージカードを送り、様子を知らせており家族に好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	2か月に1回、合同ミーティングを行っており、意見交換や提案を聴く機会を設けている。活発な意見が聴かれさらに交流の場にもなっている。	定例のミーティングに限らず、職員は毎日の申し送り時も含め日頃からホーム長に相談しており、ホーム長は話しやすい雰囲気づくりに配慮している。これまでに夜勤帯など職員が少ない時間の対応について相談があり、解決策を検討し改善している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務予定表、実績表により把握してもらっている。実践時の悩みや苦労についての相談にも応じ職場環境の整備に努めてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外内部研修会参加を積極的に勧めている。研修後は研修報告書で報告してもらい学びを聴きとるようにしている。参加できなかった職員のために報告書を回覧できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会員であることで、会議や研修会へ参加する機会がある。参加時は情報交換を行い、介護支援の向上に努めることができている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所の面接時に本人様の話を傾聴し、思いに寄り添うように努めている。表情や声のトーン、解り易い言葉使いで不安な思いに配慮するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いをまず傾聴することを基本とし、当グループホームについての説明を十分に行うようにしている。気軽に相談してもらえるような雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期対応で支援内容を見極めるのは困難と考えられるが、様々な選択肢があることや、柔軟な姿勢で対応できることを理解していただけよう説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症状態にある利用者の思いや行動を理解しながら、家庭的な雰囲気作りを大事にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に喜んで頂けるよう、定期的に写真入りの近況報告やあじさい便りを送付している。面会時にはご本人とご家族との関係調整に努めるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親類、友人、知人の面会時にはゆったりと話しができるように心がけている。また次回、気軽に訪問面会していただけるよう説明し、挨拶や雰囲気作りにも配慮している。	子どもや親戚、以前入院していた同室の友人などが面会に訪れている。孫の結婚式への参列や子どもと一緒に外出など個別に企画し、支援している。毎年恒例のお祭りでは、自身の小遣いで好きな物を買っており、これまでの生活と変わりなく過ごせるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がトラブルや孤立がないように座席を工夫したり、利用者みんなが楽しめるようなレクの工夫や声かけに配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、いつでも相談や支援ができることを説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	どのような暮らしを望んでいるのか、等の思いが気軽に話せるような、安心感や信頼が得られるように努力している。	入浴時やソファで休憩している時など、本人と職員が1対1になる機会に、思いを聞き取っている。把握した情報は送りで伝達する他、ノートや介護記録に記して職員間で共有している。本人の聞き取りが困難な場合は家族の協力を得て、昔のことを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には必ず事前訪問を行い、本人及びご家族からの聞き取りや、文書等からの情報を収集し状況の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	得られた情報を介護記録に記載するとともに、申し送りやミーティングなどで情報を共有し、現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及びご家族からの希望や意向を聴きとり、担当者会議で公表し意見交換後に計画を作成している。毎月のミーティングでは担当者による実施確認や評価を行っている。	計画は、本人・家族の要望等を聞き利用開始1週間で暫定プランを立て、1ヶ月後に見直しを行っている。毎日のケアプラン実績表と毎月のミーティングや個別記録の気づきで、計画の実践状況や評価を検討し、次の計画に繋げている。6ヶ月毎の見直しと、変化があれば即変更するなど現状に合った支援計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録には事実や利用者が発言した言葉をできるだけ記載し、実践した内容が正確に共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎日の申し送り後に、ミニカンファレンスを行い、柔軟な支援ができるように、スタッフ間で確認を取り合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の保育園児や中学生の訪問ボランティア、巡回図書などの受け入れを積極的に活用することで、豊かな暮らしを楽しんでいたけよう、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかり医への受診の際は日頃の健康状態を正確に伝えることで適切な医療を受けられるようにしている。またご家族への連絡も密に行っている。かかり医、本人、ご家族との関係が良好に築けるよう配慮している。	かかりつけ医の受診は家族対応を基本としているが、状況によって職員が対応している。受診結果は事業所と家族の双方で共有している。皮膚科などの専門医の受診や緊急時の対応も医療機関の協力体制があり、適切な医療受診が出来るよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	適切な受診や看護がうけられるように、看護職者に対し正確な情報を伝え相談できるよう、日頃より健康に関する知識への認識に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先への情報提供を行い、ご家族も含め定期的に連絡をとり、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に施設の出来ること、関係機関との協力体制などについて説明し、書面での同意を得ている。状態変化があった際は早い段階で、密に話し合いの場を設け、方向性が共有できるようにと考えている。	重度化した場合の対応および看取りに関する指針があり、利用開始時に本人・家族に説明を行い文書で同意を得ている。家族等の要請があれば、事業所でする事を十分に説明し医師、看護師、職員、家族等が連携し看取りに取り組む方針である。ただし、職員の看取りに関する研修はこれからである。	利用者、家族の意向を踏まえ、安心して納得した最期を迎えられるよう、また利用者、家族、職員の不安を無くすためにも、重度化した場合や看取りに関する研修の実施に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時にどのような対応が必要かを日頃よりシミュレーションし、話題にしている。また勉強会を開き、実践力が身につくよう努力している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	年2回消防署、近隣施設との合同訓練を行った。また緊急時の連絡網を新たに作成した。火災を未然に防ぐための対策としては日中、夜間帯の自主検査チェックを行っている。	年2回、夜間想定で火災時の避難訓練、消火、通報訓練実施がある。毎回近くの法人内病院から応援者が駆けつけている。外部応援者が利用者の状態を把握できるよう、独歩や車椅子使用の表示を行ったが、文字が小さく見え辛い。また、消防署の立ち入り調査や火災防止セルフチェックは行っているが、今年度は避難訓練の立ち合いが無い。	利用者の更なる安全確保のためにも、訓練時の地域住民の参加呼びかけや消防署立会いの要請を継続し、署員のプロの目でのアドバイスを受ける等、更なる災害対策に繋がることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ことば使いは敬語、丁寧語にて対応し、個別的に支援することを目標にしている。また居室入室時は声かけまたはノックをし、個人のプライバシーを大切にとの思いで対応している。	プライバシー保護のために、居室のドアのスリットには目隠しのシールを貼って工夫している。失敗し本人が傷ついた様子の際にはさりげなく声を掛けて支援しており、尊厳に配慮している。職員は声掛けのNGワードを話し合い抽出している。写真掲載については家族に書面で同意を得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が判断または決定できるような言葉かけの工夫を行い、自己決定ができることを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の天候や体調、気分に合わせて配慮しながら、希望を聴いて対応している。日光浴、音楽鑑賞、カラオケなど思い思いに過ごすことを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や入浴時には季節に応じた服を着用して頂けるように一緒に選んでいる。選ぶ際は組み合わせや色合いの希望も聴くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭では季節の野菜を種や苗から育てておりできた野菜の収穫を一緒に行い献立に取り入れている。また食事形態は個々の状態に合わせて食べやすいように工夫している。	食事は母体法人の栄養士が献立を立て、食材が事業所に届く仕組みがある。それぞれのユニットで、利用者ごとにミキサー食など食べやすい形状に調理して提供している。誕生日にはホットケーキを焼いて皆で楽しんだり、飲み物を持参して花見や公園に出掛けている。正月にはおせち、ひな祭りには甘酒など季節を楽しむ工夫もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が作成した季節の食材を取り入れた献立内容で配食している。食事、水分摂取量については個別に記録している。必要時は捕食、補水を行い健康管理を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後は口腔ケアを必ず行っている。自力で出来ない利用者にはセッティングなどの支援、介助を行っている。		

グループホームあじさい ユニット1

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄をしていただきたいので意思表示が困難な利用者に対しては、時間誘導を行い日中帯はリハビリパンツを使用し立位保持が維持できるよう努めている。	職員は利用者の排泄パターンを把握しており、時間を見ながら定期的にトイレ誘導している。自身でトイレに行く利用者についてもチェックし、支援している。入居時にオムツ利用であったが職員によって、リハビリパンツに軽減した例がある。ポータブルトイレは使用ごとに洗浄し、清潔保持に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトの乳製品を取り入れ、水分摂取量にも気をつけている。体操や歩行練習などにも参加して頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	全介助または見守り支援の必要な利用者がほとんどで自由な入浴は困難な状況。そのため、入浴時にはできるだけリラックスできるようにゆったりとした時間を確保できるようにしている。	職員は、週3回の入浴支援を目指し支援している。夏場はシャワー浴が中心であり、入浴拒否時は清拭と全身更衣を行っている。季節には菖蒲湯やゆず湯も提供しており、利用者は職員と1対1の時間を楽しみにしている。乾燥を防ぐために保湿クリームを塗布するなど、丁寧な支援が確認できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室ではいつでも自由に休む事ができ、リビングではテーブル席、畳、ソファで気分に合わせて休むことができるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は個別にファイルし、用法、用量はいつでも目にすることができるようにしている。変更があった場合は申し送りを行い情報を共有している。薬には名前、日付を記載し、与薬責任の所在を明確にしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活の中での役割、楽しみを実感してもらえるよう、洗濯物たたみや、ちり紙折り、ゴミ箱作りなど体調や気分に配慮しながら手伝って頂いている。新聞やテレビは自由に観ることができるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い時は外気浴や施設周辺の散歩の付き添いを積極的に行っている。地域行事の際は車椅子やワゴン車での送迎を行い、外出の支援を行っている。	普段から敷地内や周辺を散歩しており、車椅子利用の場合も外気浴するために戸外に出掛けている。日頃から隣接するパン屋、商店に出掛けたり、公園でのんびり過ごしており、職員が利用者の本人らしい生活を支援している。地域では多くの行事があり、メリハリのある生活となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な利用者には近隣のパン工房でのおやつ外食時や夏祭りでの買い物時にお金を渡し購入する楽しみを実感してもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればいつでも対応ができるようにしている。必要時、ご家族に協力していただき電話してもらい安心につなげる機会とする場合もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、壁やホワイトボードに貼り紙や折り紙、塗り絵などの作品を掲示している。温度計を基に室温調整にも配慮し、臭いについてはアロマ水の散布も適宜行っている。	玄関やテーブルに季節の花を飾り、明るく開放的な雰囲気のリビングでは、利用者が自由に過ごし、作品作りや風船バレーなど好みに応じ楽しむ様子が窺える。掃除、換気、湿温度管理は職員が行い臭気も無い。ベランダ越しに見える周囲の緑豊かな風景や季節の手作りの作品などで季節を感じ、居心地よく過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースのリビングには畳、ソファがあり、自由に使えるようにしている。テーブルでは椅子や車椅子に座ったまま他の利用者と交流が出来るような配置を工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が使い慣れた物や写真、誕生会での色紙小物、作品などを飾り、面会のご家族と一緒に楽しめるように配慮している。	居室はベッドとクローゼットの設置があり、利用者の状態に合わせ電動低床ベッドの使用もある。掃除や換気は朝から職員が行い、清潔である。自宅より馴染みの整理棚や縫いぐるみ等の持ち込みもあるが、品物の持ち込みが殆ど無い居室もある。また、リハビリパンツ、パッド類の他、パッド類のリストが目につく場所に置いてある。	利用者が自室として、寛げるよう馴染みの物を取り入れる他、プライバシー保護のためにも、リハビリパンツ、パッド類の保管の工夫を期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	常に整理整頓を心がけ、動線には障害物がないようにしすりを設置することで、安全に動くことができている。必要な方のために、居室・トイレ・浴室がわかるように絵や文字の工夫もしている。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270202866		
法人名	有限会社 あじさい		
事業所名	グループホーム あじさい ユニット2		
所在地	長崎県佐世保市世知原町筥瀬778-3		
自己評価作成日	令和元年8月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/">http://www.kaigokensaku.jp/42/</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑豊かかな静かな地域の中で利用者様が社会の一員として「自由に楽しく笑顔を持って」生活して頂けるよう、寄り添いながら、常に利用者様を主体とした支援に取り組んでいます。また、ご家族や地域の方が、いつでも気軽に訪問して頂けるようなグループホームを目指しています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	施設の理念、ケア理念を事業所内に提示し朝のミーティング時に皆で唱和し理念を共有している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議等で常に行事の把握を行い、七夕まつり、文化祭への作品の出展、敬老会や地元のじげもん市等に参加して交流を行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症の人を理解するために行った内部勉強会の内容や施設での実践の様子を伝え理解に努めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者様の現状や施設行事、避難訓練の報告を行い、意見交換、アドバイスを受けてサービスの向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターとの情報交換を行い、地域高齢者の情報を共有したり、市主催の研修会や勉強会に参加して入居者様の支援方法などの習得に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会や勉強会に参加して、報告やミーティング等で検討会を行い、身体拘束をしないケアに努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加するとケースカンファレンスが開かれるので当施設の状況に応じた事例を参考にユニットカンファレンスを開催している。言葉使いや接し方についても話し合いを行い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加したり、実際利用されている入居者が居られるので、成年後見人の方と直接話し合う機会があるので意見交換をおこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に事前面接を行い、ご本人やご家族の不安や訴えをよく理解した上で、施設の取り組みなどの説明を十分に行い、理解納得に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へのご家族の参加や面会時に質問や要望について提起して頂いたり、玄関に意見箱を設置して改善してほしい点や不安に思われている点を随時話し合いを行い説明もおこなっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議に代表に参加して頂き、意見や提案事項の発言を促し意見や要望を聴く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の勤務予定表、実施表により勤務状況を把握してもらうようにしている。資格取得や受けたい研修、有給取得、勤務希望等を受け付け可能な限り対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に内外研修会に参加して勉強する機会を設けている。参加できなかった職員もその後の報告会で学ぶことが出来、統一したケアが出来る様にしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の研修会やグループホーム協議会の研修の参加を取り入れ、ケースカンファやフリートーク、ストレスケアについても意見交換を行える様、学習する機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の情報について事前訪問を行い、医師看護師、包括支援センター等からの情報を元にご本人様の希望や不安を時間をかけて聴き安心して生活して頂けるよう、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様へも十分に説明を行い、困っている事、不安な事、要望なども傾聴していつでも気軽に相談できるような関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の情報や包括支援センターからの情報をもとに本人様とご家族に説明を行う際に、他のサービスの必要がある場合は選択が出来るよう説明し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自由に楽しく笑顔で、がケアー理念にあり家庭的な雰囲気の中でゆったりと過ごして頂ける様支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	定期的に写真入りの近況報告やあじさい便りを送付して近況を報告している。面会時には病院受診、食事摂取、体重などの報告を行ったり、アドバイスを頂くなど意見交換を行うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や親戚の面会時には近況をお伝えしたり記念撮影を行い、いつでも訪問して頂けるような雰囲気作りに努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクリエーションを一緒に行うことにより関わりが多くなる様支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族は施設の近くに住んで居られるので訪問してこられたり入居希望の紹介をして頂いたりと関わりを持っている。相談や支援にも努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望や思いを話して頂けるように寄り添い声かけを心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時には事前訪問を行い、ご家族からの生活歴の聞き取りや様子などを聴くなど入居前の情報収集をしっかりと行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日中の活動内容の他、バイタル、水分量食事摂取量、排泄回数など細かくチェックしている。朝夕の申し送りもデータを共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々ケアプランの実績表を記入する事で、活動意欲や精神状態を日々観察し、モニタリングやカンファレンスでの話し合いもスムーズに行えている。ご本人、ご家族様の意見も聞きケアプランの作成を行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づいた事は個別記録に記入し、申し送りでも共有している。毎日ケアプラン実践をチェックして評価を行い、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様やご本人様の希望に対し、その時の状況に応じ話し合いを持ち希望や要望に添えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化際などに作品を出展したりじげもん祭りに参加したりしている。また月1回の巡回図書での紙芝居は特に毎月楽しみにされている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの入居者様が地元の方で関連の病院がかかりつけ医となっているがご本人様やご家族様の希望や意向については以前からのかかり医を受けられるよう支援している。専門科の受診に関しても上記同様支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職は介護職と情報を共有して業務に当たっている。また異常発見時には適切な医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご家族、主治医、施設で入居者様の状態に合った医療機関の紹介を話し合い、入院時には介護サマリーで正確な情報の提供を行っている。入院後はこまめに面会を行い医療機関との連携を行い施設への導入がスムーズに行える様にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化についての指針や同意についての説明をし確認をとっている。終末期が近づいた場合には、ご家族様や医療機関、施設が十分話し合いを持ちご家族の不安とならない様支援する方向である。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や転倒による救急対応は全体カンファレンス等で繰り返し話し合いを行い、マニュアルの確認を行っている。実際に経験したことを必ず全員に伝えるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	定期的に消防避難訓練を関連施設と合同で行い全社で常に応援できる体制ができている。日常、夜間点検で火災などを未然に防ぐ対策を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の人格を尊重し、常に穏やかな声かけに心がけている。職員同士で言葉使いや接しかたについてカンファ等で話し合い注意あっている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者が自己決定できるような声かけを行っている。「何かしたいこと、食べたいもの」などの希望を聴き、出来る限り希望に添えるような声かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	年齢が70歳～90歳代までが入居されており、その方の体調等を考慮しながら日々希望に添った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の更衣に関して希望される方は希望を聴いたり天候によってはアドバイスして決定している。2か月に1回の理美容は皆様さっぱりされるので笑顔で受けられている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の量や食べやすさを工夫しスタッフ同士で話し合い支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	事業所の栄養士が献立を作成しているので栄養のバランスは確保できている。摂取量や水分量は記録に残し状況の把握に努めている。嚥下状態に合わせてトロミをつける対応もとっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行っている。入居者の状況により見守ったり介助したりして対応している。義歯の消毒は職員により支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿排便の記録を作成する事により個々の排泄の支援を行っている。半数は立位困難でおむつ使用となっているが、時間毎の交換、清拭、軟膏塗布などの支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日牛乳や乳製品を取り入れたり、一日の水分摂取を記録することにより、便秘の予防に取り組んでいる。自力での排泄が困難な方には主治医と相談し下剤を調整して飲んで頂く支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	無理に入浴を勧めることなく声かけにより気持ちよく入浴して頂いている。気分によってはシャワー浴に変更することによりスムーズに入浴支援をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の意思、気分の状態により、自室で自由にゆっくりと休むことが出来、リビングでもソファーやテーブルでお話したり傾眠したりと自由にされる様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の服用については、職員全員が既往歴や薬の内容を把握し、変更や追加処方がある時は薬明細を元に申し送りをおこなっている。また次回受診時には主治医への状況報告に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の体調や気分に合わせて、レクレーションや体操を取り入れたり、個別で写経、塗り絵等職員と一緒にしたり考えたりして支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとにドライブに行ったりその時に応じた散歩や関連のパン工房への買い物を行い、地域の方との触れ合いも大事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方がおられず、事務所に管理を行っている。必要な物の購入や外出時の買い物希望がある時は同行して支払いの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族との面会、電話対応、こちらから電話される方もおられるので支援している。手紙については、受け取り後に、読んだり説明したりして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、リビング等毎日掃除を行い、感染防止の消毒も行っている。フローアーには季節の掲示物を展示したり入居者様のぬり絵や貼り絵の作品やあじさい便りなどを掲示している。室温調整も行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルに座ったり、畳やソファーに自由に座って頂ける様にして、新聞やTV視聴したり、レクリエーションも自由な居場所を利用して頂ける様工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様とご家族様と話し合いによりベッドの位置を決めたり、クローゼットは備え付けてあるが、使い慣れたタンスや布団を持ち込みされて、自分の家で生活して頂ける様な配慮を心掛けている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フローアー内やトイレ、浴室等、すべてに手すり付けてあり、安全に移動できる様になっている。絵や文字で自室、トイレ、浴室が分かるようにしている。		